



年 組 名前

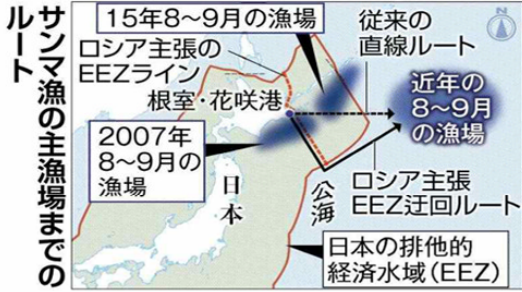
道新ワークシート

道東サンマ漁 三重苦

魚体小さく量も少なく 燃料高 日口険悪で安全不安

【根室、厚岸、釧路】道東沖サンマ棒受け網漁は大型船（100ト以上）の水揚げが8月26日に始まり、1週間が過ぎた。初水揚げで見たのは、漁場の変化に伴う魚の量と質の低下、燃油高騰によるコスト増、日口関係の悪化に伴うロシア主張排他的経済水域（EEZ）を航行する際の安全性の確保という三重苦にあえぐ漁師たちの姿だ。

（武藤里美、川口大地、大瀧伸介）

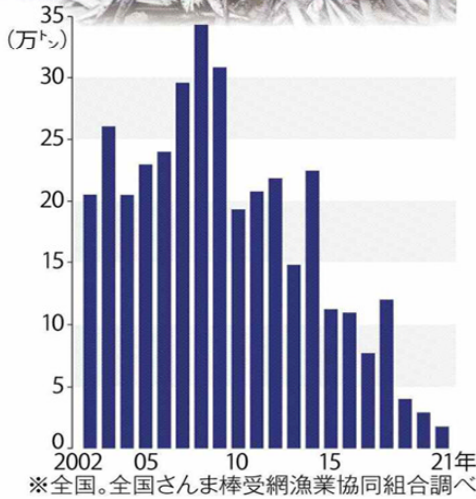


「この大きさでは加工用にしかならないじゃないか」。漁業者らは1匹70〜80センチが主体だった26日の大型船の水揚げに肩を落とした。単価は昨年の半値以下に1時400円。目が肥えた消費者が多い根室市内にはこの日、サンマは並ばなかった。

※水産庁の資料などから作成



過去20年間のサンマ水揚げ量の推移



ア根室市、釧路管内厚岸町、釧路市から出漁した今年のサンマ棒受け網漁の道内初水揚げは、小型船が260ト、中型船は5・4トでいずれも昨年の1割未満。大型船は59・6トで昨年の8割程度と健闘したもの、魚の大きさは近年に比べると割程度小さかった。

イサンマの水揚げは200

ウ現在の漁場は根室沖140年代は毎年20万トを超えたが、15年以降急減。21年は1万8千トだった。寒流の親潮が弱まるなどして冷水を好むサンマの漁場が根室から遠く離れた北太平洋の公海に移ったことや、外国船を交えた漁獲争いも続くことなどが原因とみられている。

「ロシア側には拿捕されたらどうなるか。ルール違反と疑われないよう気を付けて航行した」。8月26日に根室市の花咲港で水揚げした大型船、第88盛勝丸の漁労長、長野重己さん(69)は語る。同船は往復ともにロシア主張EEZを通過。魚群

00トが中心で、道東からはロシア主張EEZ内を東に直進するのが最短。だが、日口関係の悪化でロシア側による臨検の強化、ミサイル訓練の活発化の可能性が指摘され、迂回を余儀なくされる例も多い。

初水揚げから1週間 漁師「完全な赤字」

道立総合研究機構釧路水試の石田良太郎研究主幹は、水揚げは秋以降に盛り返す可能性があるが、魚の大きさは小ぶりだ。漁師は「資源管理には北太平洋漁業委員会(NPFC)など、国際的な枠組みで長期的な視点を持って話し合うべきだ」と話した。

の探索をしないなどルールを守り、臨検はなかった。「行きは遠回りした。燃料代がかさみ、負担が重い」。大型船、第88幸福丸船主の庄林正勝さん(87)は嘆く。資源エネルギー庁によると、6月の漁船用重油(1ト当たり)は前年比2割増の95・1円。大型船の燃料費は1日数十万円から100万円、ロシア主張EEZ迂回ルートなら直進の1・3倍になる。8月29日に厚岸漁港で初水揚げした大型船、第63福寿丸船長の福田聡さん(59)は「水揚げ10トを目指したが水揚げは6ト半。魚体は小さいものが多く、完全な赤字だ」とため息をついた。

の探索をしないなどルールを守り、臨検はなかった。「行きは遠回りした。燃料代がかさみ、負担が重い」。大型船、第88幸福丸船主の庄林正勝さん(87)は嘆く。資源エネルギー庁によると、6月の漁船用重油(1ト当たり)は前年比2割増の95・1円。大型船の燃料費は1日数十万円から100万円、ロシア主張EEZ迂回ルートなら直進の1・3倍になる。8月29日に厚岸漁港で初水揚げした大型船、第63福寿丸船長の福田聡さん(59)は「水揚げ10トを目指したが水揚げは6ト半。魚体は小さいものが多く、完全な赤字だ」とため息をついた。



年 組 名前

道新で ワークシート

①見出しの「三重苦」について、のリード文から、書き出しましょう。

一	
二	
三	

②記事にあるグラフについて述べている文章は、ア～ウのうちどれでしょう。記号で答えましょう。

③記事中のぼう線部分「肩を落とした（落とすでも可）」という言葉を使って短文を作りましょう。